

本年度の重点目標

- ・授業を大切にし、基礎基本の定着を図るとともに、適性・能力を最大限に伸ばさせる。
- ・学校の教育活動を保護者・地域等に積極的に伝える。

領域	重点評価項目	中間評価(10月)	総合評価(3月)	
		自己評価	自己評価	学校関係者評価
1 学校経営	教育目標の実現に向けて努力している。	A		
	保護者・地域等に教育方針や教育活動について説明し、理解を求めている。	A		
2 教育課程・学習指導	個別の指導計画の作成と活用に努め、生徒の実態を踏まえた指導のあり方を工夫している。	A		
	生徒の学習意欲を喚起し、職業的自立への力を育む授業と適切な評価を行っている。	A		
3 生徒指導	基本的生活習慣の確立と学校生活の充実を目指した生徒指導を行っている。	A		
	一人ひとりの居場所を大切にし、いじめのない安心して学べる学校になっている。	A		
4 進路指導	進路に係る取組をととして、生徒の自己理解を促進し、自立を見据えたキャリア教育を行っている。	A		
	生徒が望ましい勤労観や職業観をもつことができるように各学年に応じた就業体験を行っている。	A		
5 保健・安全指導	生徒の心身の状況把握に努め、その状況に応じて適切な対応をしている。	A		
	災害を想定した避難訓練をはじめ、防災教育を計画的かつ効果的に行っている。	A		
6 人権教育	安心して学べる学校づくり、明るく生き生きとしたクラスづくりに努めている。	A		
	特別活動や教科学習などの時間を利用して、人権意識を高める指導を行っている。	A		
7 環境教育	環境学習を総合的な探究の時間、特別活動や教科学習の時間に位置づけ、積極的に行っている。	A		
	ごみの減量化やリサイクルなどを意識した学習活動を行い、発信している。	A		
8 交流及び共同学習	北大津高校との交流の意義を評価し積極的に進めると共に、その成果の発信に努めている。	A		
	学習活動として地域や企業に出向き、様々な経験を積むことで生きる力を育成している。	A		
9 教職員の現職教育	教職員の研修は、学校内外の状況を踏まえながら、必要な研修を適切な時期に実施している。	A		
	教職員は主体的に学ぶ意識をもち、ICT活用指導力の向上等を目指して各種研修会に参加している。	A		
10 センターの機能の発揮	地域の学校や保護者に向けて、学校説明会や特別支援教育に係る研修会などの事業を行っている。	A		
	地域の福祉や医療、就労支援機関等と積極的に連携を図っている。	A		
11 その他学校の取組み	施設や設備について定期的に点検を行い、適切に管理している。	A		
	公開授業や発表会、授業参観等を設けて学校の様子を公開し、保護者や地域等に教育活動を発信している。	A		

(注) ・評価については、A B C Dの4段階で示す。

・生徒指導の欄に、いじめの項目を入れること。また、教職員のICT活用指導力の向上、キャリア教育に関する項目について、任意の領域に含めること。

・自己評価：A B C Dの基準については、評価項目の内容が、十分に達成できた場合(達成度80%以上)はA、おおむね達成できた場合(達成度60%以上80%まで)はB、あまり達成できていない場合(達成度40%以上60%まで)はC、達成できていない場合(達成度40%未満)はDとする。ただし、アンケートの結果等を機械的にA B C Dの評価に置き換えるのではなく、学校の現状を真摯に分析・検討し、今後の学校改善につながるよう、適切に評価すること。